

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

- 日 時 令和6年8月22日(木) 午後3時～午後4時
- 場 所 テレビ会議 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
鳥取県中部医師会館 倉吉市旭田町
鳥取県西部医師会館 米子市久米町
- 出席者 30人
〈鳥取県健康会館〉
清水健対協会長
瀬川・岡田・満田・松木・谷口・松田・角田・前田和・渡邊・山下各委員
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：川本室長、上田課長補佐
東原係長、藤田主事
健対協事務局：岡本事務局長、岩垣次長、田中係長、廣瀬主事
オブザーバー：鳥取市保健所健康子育て推進課健診推進室 川戸看護師
岩美町健康福祉課 横山保健師
八頭町保健課 田中主任保健師
〈鳥取県中部医師会館〉
福羅委員
〈鳥取県西部医師会館〉
孝田委員長、永原・陶山・前田直・岡野各委員
オブザーバー：米子保健所健康支援総務課健康長寿担当 槇原保健師
日野町健康福祉課 大塚保健師

【概要】

・肝炎ウイルス検査の令和5年度実績は、保健所においてB型肝炎検査12件、C型肝炎検査12件で、そのうちB型、C型いずれも陽性者は0人であった。委託医療機関においては、B型肝炎検査は医療機関35件、検診機関1,412人、C型肝炎検査は医療機関で32件、検診機関1,411件で、そのうち、陽性者はB型と医療機関でのC型が0人であったが、検診機関よりC型陽性者が1人あった。

- ・肝炎治療特別促進事業では令和5年度の認定件数は、B型肝炎は1,010件、C型肝炎は40件であった。
- ・鳥取県肝疾患専門医療機関の選定について、国の通知に合わせて選定要件項目を変更した結果、19医療機関（更新12か所、新規7か所）から指定申請書が提出され、令和6年度第1回肝炎対策協議会において、全件が承認されたと報告があった。

挨拶（要旨）

〈清水会長〉

令和6年6月15日に行われた定例代議員会において、第16代鳥取県医師会長に選任され、同時に本協議会会長に就任した。よろしくお願いします。

肝臓がん対策は、B型及びC型ウイルス性肝炎への対策が取り組まれてきており、着実に成果が上がってきているところである。引き続き、本県の肝臓がん対策、健康増進に繋げていただきたい。

本日は、限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

〈孝田委員長〉

暑い中、お集まりいただきありがとうございます。委員変更もありましたが、それぞれご意見を願います。それでは、始めさせていただきます。

報告事項

1. 令和4年度肝臓がん検診発見がん患者追跡調査結果について：孝田委員長

令和4年度肝炎ウイルス検査による肝臓がんまたは疑いは発見されなかった。また、令和4年度定期検査による肝臓がんまたは疑いは、資料については16件の報告があるが、以前の報告例も含まれているため、それを除くと9件であった。2件は確定診断がされておらず経過観察中である。多発例もあり、がん切除など根本的治療もされている。引き続き定期検査をしていただきたい。

平成10年度～令和3年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見がん追跡調査報告では、生存率にはあまり変化がなく、定期的に治療をされている患者さんもいる。分子標的薬の登場で長生きされているが、年齢も高くなり、治療が難しくなっている方も増えている。

平成7年度～令和3年度肝臓がん検診発見がん追跡調査報告では、31例の内、生存は3例であり生存率は良くない。1例は無再発だが、2例は再発し治療をされており、予後は良くない状況であ

る。

2. 令和5年度県が実施する肝疾患対策事業の実施状況について：

東原県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長

（1）肝炎ウイルス検査の実施状況

保健所無料検査の実施結果では、令和5年度B型肝炎検査C型肝炎検査受検者数はともに12人であり、陽性者はB型肝炎C型肝炎ともに0人であった。コロナ前の受検者数と比べるとまだ少ない状況である。

委託医療機関検査の実施結果では、医療機関受検者数はB型肝炎検査35人、C型肝炎検査32人と昨年並みであった。陽性者はB型肝炎C型肝炎ともに0人であった。検診機関受検者数はB型肝炎検査1,412人、C型肝炎検査1,411人であった。陽性者はB型肝炎が0人でC型肝炎が1名であった。中国労働衛生協会でも20代・30代に積極的受検勧奨がされた結果、受検者数は大幅に増えている。

（2）肝炎ウイルス初回精密検査費用助成

令和5年度の助成件数は8件であり、内訳として、市町村健康増進事業の検診で6件、職域の検査で1件、手術前の検査で1件であった。

（3）定期検査費用助成事業

令和5年度は31件であった。1人1年度内に2回まで申請が可能となっており、31件は実人数ではない。実人数の内訳は、慢性肝炎が15人、肝硬変が1人、肝がんが2人、非ウイルス性が2人であった。非ウイルス性肝疾患高リスク者への助成は令和5年度から開始され、鳥取県独自の事業である。

（4）肝炎治療特別促進事業の認定状況について

令和5年度は、B型肝炎でインターフェロン治療が2件、核酸アナログ製剤治療が1,008件で、合計1,010件の認定があった。C型肝炎は40件の認定があり、B型、C型合計1,050件の認定があり例年並みであった。

（5）肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の認定状況について

令和5年度は肝がんが9人、非代償性肝硬変が

1人、肝がん・非代償性肝硬変が1人で合わせて11人であった。令和6年度は7月末時点では、肝がんが11人、肝がん・非代償性肝硬変が1人で合わせて12人と、例年と比べ増加している。これは、令和6年4月より一部要件が緩和され対象者が増えたこと、また、制度の周知が進んだ結果と考察された。

孝田委員長より、費用助成の認知度や申請件数が低いため、市町村においても費用助成のチラシ配布の工夫をしてほしい。また、定期検査の受診率も減少してきているため、費用助成の周知とあわせてテコ入れをしていく必要があるとお話があった。

3. 第3次鳥取県肝炎対策推進計画について：

東原県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長
肝炎対策基本法及び肝炎対策の推進に関する基本的な指針に基づき「第3次鳥取県肝炎対策推進計画」（期間：令和6年～11年度）を策定した。この度より第8次鳥取県保健医療計画と一体的策定とした。

孝田委員長より、数値目標について達成できるよう毎年確認し、取り組みを強化していきたいとお話があった。

4. 鳥取県肝疾患専門医療機関の選定について：

東原県健康政策課がん・生活習慣病対策室係長
現在指定されている鳥取県肝疾患専門医療機関（12医療機関）の指定期間が本年9月末で満了（3年間）する。なお、鳥取県肝疾患専門医療機関選定要領は、令和6年3月14日付で改定され、

肝疾患について専門的な知識を持つ医師として日本消化器病学会の専門医も対象とし、「腹部CT検査機器が設置されていること」は削除された。

令和6年6月に新しい選定要件に基づき、「鳥取県肝臓がん検診精密検査機関に登録のある医療機関」を対象に意向調査を実施した結果、19医療機関（更新12か所、新規7か所）から指定申請書が提出され、本委員会の前に開催された令和6年度第1回鳥取県肝炎対策協議会において全件が承認されたと報告があった。

5. 健診からの肝臓がん高リスク患者拾い上げについて：孝田委員長

現在FIB-4の測定同意者は318人で、そのうち高リスク者は49人であった。高リスク分の定期検査結果として、2020年～2021年高リスク患者は16人で2022年定期検査受診者は11人（68.8%）、肝臓がんは0人であった。2023年度からは定期検査受診者の受診費用に対して、年2回まで鳥取県からの公費補助により無料となった。2020年～2022年高リスク患者は27人で2023年定期検査受診者は7人（25.9%）、肝臓がん1人であった。受診費用は無料になったが、受診率は減少となったため、更なる仕掛けが必要である。

報告事項

1. 令和6年度肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会について

令和7年3月1日（土）に、中部で開催予定。孝田委員長に講師を選定していただくこととなった。

※前号の本会会報No830号で「健対協 肝臓がん対策専門委員会委員名簿（P66）」に誤りがございましたので、お詫びして訂正させていただきます。

（誤）陶山和子（西伯病院副院長）



（正）陶山和子（西伯病院介護医療院長）